

(2) 社会

ア 個々の問題の概要及びその通過率

— 評価の観点 —
 思・判：社会的な思考・判断
 技・表：資料活用の技能・表現
 知・理：社会的事象についての知識・理解

学習指導要領の内容	問題番号	出題のねらい	評価の観点	設定通過率 (%)	通過率 (%)
地理的分野 (2)ア	1	(1) 縮尺を手掛かりに、地図上の長さから実際の距離を求めることができる。	技・表 知・理	55.0	38.9
		(2) 2万5千分の1地形図に示された地域の様子を読み取ることができる。	技・表 知・理	65.0	53.5
地理的分野 (1)ア	2	(1) 正距方位図法において、正しく方位を読み取ることができる。	技・表	85.0	81.7
		(2) 正距方位図法において、正しく距離を読み取ることができる。	技・表	50.0	27.0
		(3) 世界の大陸の位置と名称を、世界地図(正距方位図法)上で理解している。	技・表 知・理	60.0	55.2
		(4) 世界地図(正距方位図法)上の主な地形や大陸との位置関係を手掛かりに、該当する海洋を正しくとらえることができる。	技・表 知・理	70.0	71.8
地理的分野 (1)イ	3	(1) 県名と県庁所在地名が異なる県の位置と名称を理解している。	知・理	60.0	42.2
		(2) 北緯40度の緯線をもとに日本の位置を理解している。	技・表 知・理	50.0	49.2
地理的分野 (2)イ	4	(1) 資料を基に、青森県の農業の地域的特色を読み取ることができる。	思・判 技・表	60.0	34.2
		(2) 資料から、青森県の自給率の高い農作物を指摘できる。	思・判 知・理	55.0	20.9
地理的分野 (2)ウ	5	(1) 世界のエネルギー資源の主要生産国の特色を資料から読み取ることができる。	思・判 技・表	60.0	59.8
		(2) 2つの国の統計資料から割合を求めて比較し、農業の特色を読み取ることができる。	思・判 技・表	50.0	53.8
歴史的分野 (1)ア	6	(1) 日本の時代区分の順序を理解している。	知・理	60.0	59.3
		(2) それぞれの時代に合った資料(貨幣)を指摘できる。	思・判 知・理	70.0	63.1
歴史的分野 (2)ア	7	(1) 縄文時代の人々の生活の様子について指摘できる。	知・理	75.0	35.2
		(2) 弥生時代に大陸から稲作が伝えられたことを理解している。	思・判 知・理	70.0	58.4
歴史的分野 (2)ウ	8	(1) 系図から藤原氏が政治の実権を握るために行ったことを読み取ることができる。	思・判 知・理	50.0	46.7
		(2) 平安時代に政治上重要な役割を担った人物の名前を理解している。	知・理	60.0	67.0
歴史的分野 (2)エ		(3) 平安時代を代表する建築物を理解している。	知・理	70.0	65.9
歴史的分野 (3)ア	9	(1) 中世における東アジアと日本のかかわりに関係のある人物を指摘できる。	知・理	50.0	62.1
歴史的分野 (2)イ		(2) 邪馬台国について理解している。	知・理	70.0	66.6
歴史的分野 (3)ア		(3) 琉球王国の位置を地図中から指摘できる。	技・表 知・理	70.0	79.6
歴史的分野 (3)イ		(4) 室町時代の農村の様子を指摘できる。	知・理	50.0	44.2
歴史的分野 (4)ア	10	(1) ヨーロッパ人の来航の影響について理解している。	知・理	60.0	46.7
歴史的分野 (4)イ		(2) 桃山文化の特色を理解している。	知・理	60.0	54.3
歴史的分野 (4)エ	11	(1) 資料から、江戸時代の作品を指摘できる。	知・理	60.0	72.0
歴史的分野 (4)ウ		(2) 江戸幕府の政治の特色を資料と関連付けて読み取ることができる。	思・判 知・理	65.0	77.9
		(3) 江戸時代の対外関係を理解している。	知・理	55.0	56.6
歴史的分野 (4)オ		(4) 江戸幕府の政治改革の順序を理解している。	知・理	50.0	58.4

イ 個々の問題の教育事務所管内・地区別通過率

問題番号	問題の内容	設定 通過率	東青管内			西北管内				
				青森市	東郡		五所川原市	つがる市	西・北郡	
1	(1)	実際の距離への変換	55.0	40.0	40.4	35.2	46.8	52.5	40.5	44.5
	(2)	地形図の特性や活用方法	65.0	57.3	57.8	51.7	50.9	54.7	46.8	49.4
2	(1)	方位の読み取り	85.0	83.6	83.7	82.2	81.0	83.7	78.2	79.7
	(2)	地図中での距離の読み取り	50.0	30.4	31.0	23.3	26.3	27.1	23.6	26.8
	(3)	大陸の位置と名称	60.0	60.1	60.5	55.1	50.2	53.6	46.8	48.7
	(4)	海洋の位置	70.0	73.6	74.1	67.4	67.9	69.6	69.5	65.7
3	(1)	都道府県の位置と名称	60.0	45.7	46.5	36.9	35.9	33.3	32.6	39.9
	(2)	日本の絶対的位置	50.0	53.6	54.3	45.3	44.5	40.6	45.3	47.8
4	(1)	青森県内各地の農業の特色	60.0	36.2	35.7	41.9	35.2	36.8	36.9	33.0
	(2)	青森県の自給率の高い農作物	55.0	23.0	23.2	21.6	20.6	23.1	20.8	18.2
5	(1)	各国の特色の読み取り	60.0	60.9	60.8	62.3	60.9	62.3	61.6	59.3
	(2)	各国の特色の読み取り	50.0	54.6	55.1	47.5	53.4	53.9	53.5	53.0
6	(1)	日本の時代区分の順序	60.0	63.3	63.3	63.6	56.5	56.1	54.7	57.7
	(2)	各時代の貨幣	70.0	62.2	62.1	63.6	62.6	62.3	61.3	63.6
7	(1)	縄文時代の人々の生活	75.0	35.8	35.9	34.7	30.4	31.2	30.8	29.4
	(2)	稲作の伝来	70.0	59.9	59.5	64.8	56.2	59.9	63.1	49.3
8	(1)	藤原氏の摂関政治	50.0	47.7	46.8	58.1	49.5	55.9	50.8	42.9
	(2)	平安時代に重要な役割を担った人物	60.0	69.2	69.1	70.3	64.4	60.7	68.6	65.8
	(3)	国風文化の建築物	70.0	68.0	68.2	65.7	63.8	62.0	65.9	64.5
9	(1)	東アジアと日本とのかかわりに関係する人物	50.0	65.2	65.0	67.8	58.8	58.2	60.4	58.6
	(2)	卑弥呼の国	70.0	67.4	66.7	74.6	67.3	70.4	64.4	65.8
	(3)	琉球王国の位置	70.0	77.5	77.2	80.5	81.9	83.8	84.3	79.0
	(4)	室町時代の農村の特色	50.0	46.9	47.2	43.2	43.0	46.6	40.8	40.8
10	(1)	ヨーロッパ人来航の影響	60.0	46.7	46.6	48.3	43.3	46.1	41.7	41.6
	(2)	桃山文化の特色	60.0	55.7	55.4	60.2	47.4	58.5	45.6	37.9
11	(1)	江戸時代の作品	60.0	72.6	72.6	72.5	68.4	68.5	70.4	67.3
	(2)	江戸幕府の政治	65.0	80.2	80.3	80.1	77.2	78.0	78.9	75.6
	(3)	江戸時代の対外関係	55.0	61.2	61.2	61.4	50.9	48.7	54.7	51.2
	(4)	江戸幕府の政治改革	50.0	63.0	62.4	69.9	50.1	52.1	51.1	47.6
教科全体			60.9	57.3	57.3	56.9	53.3	54.8	53.2	51.9

(単位：%)

	中 南 管 内				上 北 管 内				下 北 管 内			三 八 管 内		県全体	
	弘前市	黒石市	平川市	中・南郡	十和田市	三沢市	上北郡	むつ市	下北郡	八戸市	三戸郡				
37.8	40.0	31.6	33.4	38.9	34.4	37.7	35.2	31.8	32.8	35.9	20.0	39.1	38.1	42.3	38.9
49.1	51.1	42.2	48.1	48.8	51.2	58.2	47.8	47.9	51.4	54.6	38.8	56.8	57.2	55.7	53.5
80.8	82.2	77.9	79.5	78.9	80.3	82.7	81.2	78.2	76.9	76.2	79.4	83.1	82.7	84.4	81.7
23.6	26.6	16.2	21.6	20.0	25.3	31.1	24.4	21.5	24.1	24.2	23.6	28.8	28.7	29.1	27.0
49.9	53.9	43.4	44.1	44.7	51.2	62.3	47.1	45.2	47.6	49.3	40.6	62.2	63.5	58.0	55.2
69.1	71.0	62.0	70.6	67.1	71.7	78.9	66.6	68.9	66.6	67.7	62.4	75.6	75.2	76.8	71.8
41.6	43.0	48.1	37.8	32.1	34.7	34.8	33.4	35.3	36.1	36.2	35.8	48.9	49.2	48.1	42.2
44.4	43.3	46.3	45.2	46.6	48.8	56.9	42.2	46.0	46.1	46.5	44.8	52.2	53.9	46.9	49.2
31.0	30.4	35.0	27.7	32.6	32.4	35.2	31.2	31.0	34.1	34.3	33.3	35.6	35.9	34.7	34.2
26.6	28.8	20.8	21.9	27.7	15.3	15.8	14.6	15.4	16.1	16.1	16.4	19.1	19.5	17.7	20.9
57.0	56.3	58.4	57.0	58.1	58.0	64.3	56.0	54.1	56.7	58.2	50.9	61.8	62.3	60.2	59.8
52.6	52.7	54.8	55.4	49.0	51.4	54.4	49.6	50.1	52.7	52.5	53.3	55.9	55.4	57.3	53.8
58.9	60.9	54.2	59.1	54.8	59.9	61.7	52.7	61.9	52.7	55.0	43.0	58.4	59.2	55.8	59.3
62.6	61.8	60.4	65.7	65.2	63.6	63.3	63.9	63.7	58.0	58.5	55.8	65.5	66.4	62.9	63.1
32.8	33.0	30.1	32.9	34.5	36.6	41.0	40.4	31.7	31.0	33.1	22.4	39.4	38.9	41.0	35.2
54.0	55.5	52.4	51.9	50.7	60.0	66.3	64.6	53.4	58.1	60.9	46.7	61.0	60.9	61.1	58.4
41.8	40.0	43.4	45.5	44.4	47.8	57.4	48.4	40.6	45.1	44.1	49.1	48.0	47.3	50.0	46.7
62.9	63.6	62.5	62.8	60.0	66.5	73.8	53.6	67.3	68.8	71.0	60.0	69.5	69.4	69.8	67.0
65.6	67.0	67.6	63.1	59.5	64.4	67.0	61.9	63.6	54.6	55.3	51.5	69.1	69.2	68.6	65.9
60.7	60.8	60.9	59.4	61.1	59.4	61.9	55.2	59.6	53.7	54.7	49.7	65.7	65.9	64.8	62.1
68.1	73.4	59.6	64.8	57.0	59.6	61.7	63.0	56.5	68.0	69.2	63.0	68.3	69.4	64.7	66.6
79.5	80.8	74.3	82.1	76.7	78.6	77.9	76.9	79.8	76.3	76.7	74.5	81.9	82.0	81.7	79.6
42.2	42.2	32.4	47.3	47.4	40.4	41.5	38.1	40.6	45.8	45.9	45.5	45.9	47.1	42.1	44.2
46.1	45.6	44.0	51.3	45.5	45.3	50.6	40.1	43.9	43.5	44.4	40.0	50.7	50.9	49.9	46.7
57.0	59.3	46.3	58.5	57.0	48.9	51.6	39.0	51.5	48.8	49.2	47.3	58.8	60.6	53.3	54.3
70.1	69.6	68.9	76.4	67.9	72.3	75.9	65.2	72.9	69.3	69.8	67.3	75.4	75.9	73.9	72.0
74.9	74.7	76.3	75.8	73.4	74.5	80.1	69.7	72.8	74.9	74.0	78.8	81.5	81.8	80.4	77.9
52.1	54.0	51.2	47.0	49.9	55.5	62.3	47.3	54.4	49.2	48.1	53.3	61.5	60.3	65.1	56.6
58.3	57.9	57.6	59.9	59.5	55.6	60.2	46.4	56.5	51.4	51.0	53.3	61.8	60.8	65.1	58.4
53.5	54.4	51.0	53.2	52.0	53.2	57.5	50.1	51.5	51.4	52.2	48.3	58.0	58.2	57.3	55.2

ウ 内容・領域別結果の概要

内容・領域	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各内容・領域の 通過率(%)	設定通過率 (%)
世界と日本の 地域構成	6	2(1)、2(4)	2(2)、3(1)、 3(2)	54.5	62.5
地域の規模に 応じた調査	6		1(1)、4(1)、 4(2)	43.3	57.5
歴史の流れと 地域の歴史	2	6(2)		61.2	65.0
古代までの日 本	6	8(2)、8(3)、 9(2)	7(1)、8(1)	56.6	65.8
中世の日本	3	9(1)、9(3)	9(4)	61.9	56.7
近世の日本	6	11(1)、11(2)	10(1)	61.0	58.3

内容・領域別にみると、通過率の高かったのは、「歴史の流れと地域の歴史」、「中世の日本」、「近世の日本」である。

通過率が低かったのは、「地域の規模に応じた調査」である。

設定通過率と比較すると、これを上回ったのは、「中世の日本」であり、同程度だったのは、「歴史の流れと地域の歴史」、「近世の日本」である。また、下回ったのは「世界と日本の地域構成」、「地域の規模に応じた調査」、「古代までの日本」である。

エ 評価の観点別結果の概要

評価の観点	問題数 (問)	通過率の高かった 問題(10問)	通過率の低かった 問題(10問)	各観点の 通過率(%)	設定通過率 (%)
社会的な 思考・判断	8	6(2)、11(2)	4(1)、4(2)、 8(1)	51.8	60.0
資料活用の 技能・表現	11	2(1)、2(4)、 9(3)	1(1)、2(2)、 3(2)、4(1)	54.9	61.4
社会的事象に ついての知識 ・理解	24	2(4)、6(2)、 8(2)、8(3)、 9(1)、9(2)、 9(3)、11(1)、 11(2)	1(1)、3(1)、 3(2)、4(2)、 7(1)、8(1)、 9(4)、10(1)	56.1	60.8

観点別にみると、通過率はいずれも50%台であったが、その中で高かったのは、「社会的事象についての知識・理解」である。

通過率が低かったのは「社会的な思考・判断」である。

設定通過率との比較では、これを上回ったり同程度のものではなく、すべての観点でこれを下回っている。

なお、中学校社会科の場合、小問の評価の観点が複数あるものが多く、各観点の通過率は、互いの通過率に影響している。

オ 個々の問題の主な誤答例とその原因

問題番号	通過率(%)	設定通過率(%)	主な誤答(無答を含む)例 (カッコ内の数字は、抽出した解答全体に占める誤答の割合・%)	
1	(1)	38.9	55.0	35(12.0)、無答(7.5)、14(5.0)、350(4.5)、3500(2.0)、7(2.0)、その他(14.0)
2	(2)	27.0	50.0	ア(57.0)、ウ(5.5)、イ(4.5)、無答(0.5)、その他(2.0)
4	(1)	34.2	60.0	イ(38.0)、ア(18.5)、エ(3.5)、無答(0.5)
4	(2)	20.9	55.0	ウイア(31.5)、アウイ(23.5)、イウア(6.5)、アイウ(6.0)、イアウ(8.0)、その他(2.5)
7	(1)	35.2	75.0	エ(31.0)、イ(22.5)、ウ(10.0)
8	(1)	46.7	50.0	天皇との結婚のみに触れたもの(15.0)、結婚と子に触れたもの(11.0)、無答(18.0)、その他(8.5) ※「娘」・「子」を「娘子」と記述したもの(6.0)
10	(1)	46.7	60.0	ウ(29.5)、エ(11.5)、ア(6.5)

- 1(1)について

誤答の原因として、縮尺を用いて、地形図から実際の距離を求めたり、実際の距離から地形図上の長さを求める活動が不足していること等が考えられる。
- 2(2)について

誤答の原因として、問題文の意図をしっかりととらえていないことと正距方位図法における北半球のとらえができていないこと等が考えられる。
- 4(1)について

誤答の原因として青森県の各地域の農業生産についての理解や、分布図やグラフから適切な事実を読み取る活動が不足していること等が考えられる。
- 4(2)について

誤答の原因として、「自給率」の意味についての理解が不十分であること等が考えられる。
- 7(1)について

誤答の原因として、遺跡・遺物だけでなく、その時代の生活の様子についての理解が不十分であること等が考えられる。
- 8(1)について

誤答の原因として、資料の系図を活用して摂関政治について理解させる活動が不足していること等が考えられる。また、無答が多いことから、資料等から調べたことを自分の言葉でまとめる活動が不足していること等が考えられる。
- 10(1)について

誤答の原因として、キリシタン大名の出現と南蛮貿易の内容についての理解が不十分であること等が考えられる。

カ 今後の指導について

内容・領域別にみた課題としては、地理的分野では、昨年度までと同様「地域の規模に応じた調査」における、大縮尺の地形図の読図能力の伸長と資料に関連付けた青森県の特徴の把握が挙げられる。

今後の学習指導においては、「身近な地域の調査」における実際の距離への変換・方位・地図記号、等高線等、読図に関する基本的事項について、実感を伴って理解できるような指導の工夫を図ることが大切である。「都道府県（青森県）」の学習においては、現地に即した諸資料を駆使し、地域的特色という観点から、多面的・多角的に分析、考察、地図化等をしてまとめる活動を展開することが大切である。

歴史的分野における課題としては、資料を用いて各時代の特徴をとらえさせるための指導の工夫と基礎的・基本的な内容の理解と定着が挙げられる。

今後の学習指導においては、絵画資料や条文など、様々な資料から、学習課題に対して必要な事実を読み取り、歴史的事象の因果関係やその意味を考察させたりする「問題解決的な学習」を展開することが大切である。また、調べたことを年表にまとめるなどの「作業的な学習」を通して、個々の歴史的事象を大きな流れの中に位置付ける学習活動も大切である。

評価の観点別にみた課題として、「社会的な思考・判断」については、社会的事象に対する関心を高めさせながら、諸資料に基づいて多面的・多角的にとらえる能力の伸長が挙げられる。

今後の学習指導においては、統計資料等、扱う資料の読み取りを十分行い、複数の資料に関連付けて考えさせるなど、段階に応じた場面を設定していくことが必要である。その際、生徒の作業の場、発表の場、練り合いの場を意図的に位置付けることが大切である。

「資料活用の技能・表現」の課題としては、社会的事象の認識を深めることができるように、目的に応じた読図などの基礎的な技能を身に付けさせることが挙げられる。

今後の学習指導においては、積極的に地図や地球儀、年表、グラフ、絵図、写真等を用いた作業的な学習の場を設定し、系統的に学習できるよう工夫することが大切である。

「社会的事象についての知識・理解」の課題としては、各観点との関連を図り、学んだ知識をその後の学習に活用できるようにすることが挙げられる。

今後の学習指導においては、問題解決的な学習過程の中に作業的・体験的な活動を位置付け、既得知識を十分に活用し授業を展開することが大切である。

個々の問題の誤答傾向からみた課題としては、地理的分野においては、地形図や世界地図（正距方位図法）、統計資料等の活用能力の伸長と、青森県各地域の大まかな地理的特色の把握が挙げられる。

今後の学習指導においては、実際の距離感覚をつかむことができるよう身近な地域の地形図を用いて実際の距離を求めさせるなど、授業での地図活用場面を意図的に設定し、技能の習得を図る必要がある。また、青森県各地域の地理的特色については、土地利用図等の活用の他、統計資料などから各地域の特徴を読み取り、地図化するなどの活動を取り入れて理解させるよう指導することが大切である。

歴史的分野においては、各時代の生活の様子や文化等の特徴の理解の充実が挙げられる。

今後の学習指導においては、各時代の特徴を共通したテーマごとにまとめ比較させるなどの

指導の工夫をすることが大切である。

設定通過率との比較からみた課題としては、地理的分野における基礎的・基本的な内容の定着が挙げられる。地理的分野の設定通過率の平均60%に対し、通過率の平均は48.9%で11.1ポイント下回っている。特に、「縮尺を手がかりに、地図上の長さから実際の距離を求める」小問は、類似問題として4年連続の出題であるが、設定通過率を16.1ポイント下回った。また、「2万5千分の1地形図に示された地域の様子を読み取ることができる」小問も、類似問題として5年連続の出題であるが、設定通過率を11.5ポイント下回った。これは、地理的分野における基礎的な技能の習得と知識の定着が図られていないことを示すものと考えられる。

今後の学習指導においては、大縮尺の地図と現地の対応関係を学んだり、地図から地域的な特色をとらえたりするなどの活動を通して読図に関する技能を高めることが大切である。

出題形式による通過率の比較では、記述式8問の通過率の平均が約54%、選択式21問の通過率の平均が約56%で、その差はほとんどない。記述式の中でも資料を基に文章化して説明が求められる問題についての通過率は約47%であった。また、その問題の抽出した解答全体に占める無答の割合は18%である。

今後の学習指導においては、問題解決的な学習の中で、資料から読み取った事実とそれに対する考えを書き出させることが大切である。

キ まとめ

内容・領域別では、歴史的分野の「中世の日本」、「近世の日本」が良好である。一方、地理的分野の「世界と日本の地域構成」、「地域の規模に応じた調査」の問題で不十分な点が見られる。特に、「地域の規模に応じた調査」については、これまでと同様、不十分な点が見られる。また、評価の観点別でも、昨年度同様、「社会的な思考・判断」、「資料活用の技能」の問題で不十分な点が見られる。

今後の指導においては、指導目標にせまるための資料を十分吟味し、そこから何を調べさせ、何を考えさせたいのかといった、学習内容をあらかじめ明確にする必要がある。また、各観点の力をバランスよく伸ばすために、問題解決的な学習過程を基本として、調べたことから自分の考えをもたせ、意見交換等の中で知識の一般化を図ることが大切である。

